埼玉学園大学・川口短期大学　機関リポジトリ

A Study of Practical Teaching Methods for the Piano Beginners in Training for the Elementary and Nursery School Teachers : Viewed from Length of Notes and Rests

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 千佳, SATO, Chika メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1208

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

教員・保育者養成におけるピアノ初心者に対する実用的指導法の考察
――音価の観点から――

佐　藤　千　佳

1. はじめに

昨今，インターネットの普及等により，音楽をより身近に楽しむことができるようになった。しかし，音楽，演奏を学ぼうとするものにとっては，弊害となる一面を持っていることは否めない。楽曲を簡単に聴くことが可能になったため，いわゆる「耳コピ」により，正確に楽譜を読むという行為をせずに演奏する例が，多々見受けられるからである。

教員・保育者養成において，学習者本人にとって未知の楽曲が課題で出た場合，指導者に模範演奏をするようせがんだり，インターネット等を通して聴いて覚えようとする例が度々見受けられる。そのため，読譜力は身に付かないままになってしまう。学習者は，読譜力を付ける努力をするべきであって，本末転倒なやり方は避けるべきである。

ピアノのみならず全ての楽器演奏に必要であろう読譜力は，本来，義務教育で身に付いているはずである。しかし，教員・保育者養成におけるピアノ初心者の割合は非常に多く，そのうちピアノ演奏以前に読譜ができない学生も多数いるのが現状である。音符の高低，長短等，基礎知識を一から指導しても，前述したように読譜をせずに，耳で覚えた楽曲を演奏するという行為を続けてしまうと，その知識は生かされないため，自力での読譜力は身に付かず，不正確な演奏になってしまう可能性が高い。読譜力を身に付けることができれば，自力での演奏能力が高まり，楽曲をより適切に表現することも可能になるであろう。

つまり，きちんとした読譜力を身に付けられないと，適切な表現力を伴った演奏を行うのは難しいと言えよう。そして，そのまま教員や保育者となった場合，適切な表現力に欠けた演奏で，教育，保育活動を行うことになってしまう。『学校教育法』第 23 条においては，「音楽，身体による表現，造形等に親しむことを通じて，豊かな感性と表現力の芽生えを養う」とあり，『保育所保育指針』においては保育の目標の１つとして，「豊かな感性や表現力を育み，創造性の芽生えを培うこと」が明記されている。しかし，適切な表現力に欠けた演奏では，その目的に沿った

経験を与えるに不十分である。幼少期の音楽経験が不十分なまま，かつ，読譜力も身に付かないままでいると，教員・保育者養成において弾き歌い奏の学習に大きな負荷がかかってしまうといった悪循環に陥ってしまうであろう。

それゆえ，まずは教員・保育者養成時に弾き歌いピアノ指導に加えて，楽典および基礎的なソルフェージュ教育を行い，基礎的な読譜力を身に付けることが，大変重要であると言えよう。

2. 読譜力に対する筆者の見地と，本論文の目的および方法

⑴ 読譜力に対する筆者の見地

読譜力は，ピアノ実技指導のみでなく，楽典およびソルフェージュ教育を並行して行うことにより増していく。楽典では理論を，ソルフェージュ教育では音を聞き取る能力，楽譜を読み取る能力，そして音楽を表現する能力を身に付けることができるからである。特にソルフェージュ教育は，演奏能力の向上に直結する。ソルフェージュ教育は，ピアノ実技と並行して同量か，もしくはそれ以上の時間をかけて行うべきであろう。

つまり，ソルフェージュ教育は，専門家のみならず，音楽を学習する全ての者にとって必須であると言えよう。音の高低，長短（リズム）等を正確に表現できる能力を身に付けることは，その後の音楽活動において必要不可欠であり，自力での読譜を可能にする大切なプロセスである。自力での読譜が可能になれば，例え未知の楽曲を演奏しなければならなくなったとしても，自力で演奏をすることが可能になるであろう。

特に音の長短，つまりリズム打ちの学習は大変重要であると思う。なぜなら，音の高低は，理解度の差はあるにせよ，自力での理解および表現は可能であるが，音の長短（リズム）は，指導者無しでの理解，習得は難しい場合が多いからである。

それゆえ，教員・保育者養成においてソルフェージュ教育は必要不可欠のものであると言えよう。しかしながら，教員・保育者養成の現状においてはピアノ実技指導にかけることのできる時間は大変短く，そのためソルフェージュ教育を行う充分な時間を取ることが難しい。本論文ではその見地から，教員・保育者養成におけるピアノ初心者に対する音価を基にした実用的な指導法を考察したい。

⑵ 先行研究の検討

教員・保育者養成でのピアノ伴奏指導における先行研究のうち，読譜力のないピアノ初心者に対する指導上の問題について論じられている物は非常に多い。その中でも，髙﨑展好「保育者養成における音楽表現のためのリズム・ソルフェージュ指導法」は，ソルフェージュ，リズム学習

の重要性について論じている。また，本多佐保美，山本純ノ介，揚原祥子「小学校教員養成課程教科専門科目「音楽」の内容に関する検討試論」においても，リズム譜を作成し，利き手でない方の手リズム打ちを行う等，やはりリズム学習に関する記述が見受けられる。その他，リズムに言葉や音をあてはめて，リズム学習を行うといったもの等があり，リズムに特化した指導法も見受けられた。

それら指導法は，ソルフェージュ教育にかける時間的余裕がある場合は大変有益であろう。しかしながら，時間的制約がある現状においてはその全てを試みることは難しいと思われる。それゆえ，ソルフェージュ教育を別に行うのではなく，実際の弾き歌い楽曲に沿ったソルフェージュ教育を行っていくことが，現状においては実用的かつ効率的ではないであろうか。

⑶　本論文の目的

以上に基づいて本論文では，弾き歌い楽曲の適切な演奏表現を目標にし，本学の今年度（平成30年度）の音楽Ⅰの弾き歌い課題を例に挙げて，音価の観点から実用的な指導法について考察する。

⑷　研究の方法

筆者は以前，子ども用のピアノ教本に含まれる楽曲は適切な選択をすれば，教員・保育者養成のピアノ初心者における弾き歌い指導に有効である[(1)]と論じた。ピアノ初心者に対する無理のない指導法を考察するため，本論文でも同じ子ども用ピアノ教本シリーズを取り上げ，その音価における学習プロセスを分析する。取り上げたピアノ教本シリーズは，以下のとおりである。

① 田丸信明『ぴあのどりーむ 1-6』学習研究社，1993年
② 高橋正夫『新版　みんなのオルガン・ピアノの本 1-4』ヤマハミュージックメディア，2015年
③ 橋本光一『ピアノひけるよ！　ジュニア 1-3』ドレミ楽譜出版社，1998年。および『ピアノひけるよ！　シニア 1-3』ドレミ楽譜出版社，1999年

次に，本学の今年度（平成30年度）の音楽Ⅰの必修課題の音価分析，および音価に基づく指導法を考察する。ただし，音楽Ⅰでは左手がコードネーム伴奏の楽譜を主に使用しているため，本論文では，右手のメロディー部分のみ分析を行う。

なお，楽曲名の表記は，楽曲が音楽Ⅰの指定テキスト『保育の先生・学生さんへ　3つのコードで楽らく弾ける♪ピアノ伴奏曲集』に掲載されている場合は，それに準じ，楽曲がテキスト未

掲載の場合は，使用した譜面上の表記に従っている。また，拍子記号等，楽曲内の表記そのものが違っていた場合は，指定テキストに準じて分析を行った。

3. 音価の学習プロセスおよび弾き歌い楽曲のリズム分析と，それに基づく指導法の考察

音符の高低は前述したとおり，理解さえすれば，時間がかかったとしても自力での読譜は可能であろう。しかし音の長短，つまりリズムに関しては，頭で理解できていたとしても，実際の演奏に結び付けられるかどうかは定かではない。リズム打ちを並行して実践すると言った指導が必要であろう。

音の高低および長短（リズム）のうち高低については，1つの楽曲に使用される音符の高低の種類が少ないものから学習を始め，徐々に増やしていくと無理なく学習できる。ピアノ初心者における教材として最適と思われるのは，子ども用のピアノ教本であろう。大人用とは違い，初めは指の配置変えのない片手，両手交互奏，両手，つぎに指の配置が変わる楽曲へ，とわかりやすく順を追って構成されている。これら教本は，教員・保育者養成のピアノ初心者においても，歌とピアノの融合した演奏の同時学習も可能する点においても，有効である[(2)] と思われる。

学習者によっては気が急くあまり，片手からの基礎的な学習を嫌がる者もいるが，大人であれば両手奏に移行するのに時間はかからない。それよりも頭で理解した知識と実際の演奏を結び付けるための基礎的なプロセスであると考えるべきであろう。

音の長短，つまりリズムについては，前述したとおり，頭で理解していたとしても，それをただちに実際の演奏に結び付けることができるとは断言できない。リズム感がもともとある学習者は，比較的早く正確なリズムで演奏することができるようになるが，そうではない学習者は，特にリズム打ち学習を別途行うべきであろう。

しかしながら，教員・保育者養成の現状においては，時間的制限があるため，弾き歌い課題を与える順を考慮し，それに沿ったリズム打ち学習を定期的，継続的に行うことで，読譜力も付き，正確なリズムで演奏ができるようになるといった効果が，期待できるのではないか。

⑴ 子ども用ピアノ教本の音価の学習プロセスの分析

筆者が以前，比較分析した子ども用のピアノ教本を取り上げ，その音価における学習プロセスを分析する。同一楽曲内で音価記号が複数ある場合は，並列して記載した。

表 1　子ども用ピアノ教本の音価の学習プロセス

	『ぴあのどりーむ』	『新版　みんなのオルガン・ピアノの本』	『ピアノひけるよ！ジュニア』 『ピアノひけるよ！シニア』
1	4 分音符，4 分休符	4 分音符	4 分音符，2 分音符
2	2 分音符	4 分休符	全音符
3	付点 2 分音符	2 分音符	付点 2 分音符
4	2 分休符	全休符	8 分音符
5	全音符，全休符	全音符	付点 4 分音符
6	8 分音符	付点 2 分音符	全休符，2 分休符
7	付点 4 分音符	2 分休符	4 分休符
8	8 分休符	8 分音符	8 分休符
9	16 分音符	8 分休符，付点 4 分音符	16 分音符
10	16 分休符	16 分音符	付点 8 分音符
11	付点 8 分音符	付点 8 分音符	付点 8 分休符
12			複付点 4 分音符

表 1 から，どの教本も 4 分音符を基準として学習を始めているという点が明らかになった。そして，多少違いは見受けられるが，大きく分けると始めに 4 分音符，4 分休符より徐々に長い音価記号を，それから 4 分音符，4 分休符より徐々に短い音価記号を学習するというプロセスが見て取れる。『ピアノひけるよ！ジュニア』および『ピアノひけるよ！シニア』シリーズにおいては，片手交互奏の際，演奏していない手の側に休符を記載していないため，8 分音符，付点 4 分音符が先に記載されているが，基本は同じく，4 分音符，4 分休符を基準として，それより長い音価記号から短い音価記号へ，という学習プロセスを踏んでいると考えられる。休符については音符にほぼ準じているようである。

また，8 分音符においては，まず 4 分音符 1 拍分に相当する 2 つ連結した形から，付点 4 分音符と 8 分音符の組み合わせで使用されるような 1 つで独立した形へ，という学習プロセスを踏んでいた。そしてそれは，16 分音符においてもほぼ同様で，4 分音符 1 拍分に相当する 4 つ連結した形，もしくは 8 分音符 1 拍分に相当する 2 つ連結した形から，付点 8 分音符と 16 分音符の組み合わせで使用されるような 1 つで独立した形へ，という学習プロセスを踏んでいた。

これにより，音価の観点からも，子ども用の教材は適切な学習プロセスを踏んでいると考えられる。教員・保育者養成のピアノ初心者における弾き歌い指導においても，これに則った学習プロセスを踏むと良いのではないであろうか。

以上を踏まえ，本学の今年度（平成 30 年度）の音楽 I の弾き歌い楽曲を例にとって分析し，その指導法を考察する。

⑵　音楽Ⅰにおける弾き歌い楽曲の音価分析

本学の今年度（平成30年度）の音楽Ⅰの弾き歌い楽曲の課題は，以下のとおりであった。

表2　音楽Ⅰ課題曲（平成30年度）

入学前のピアノ学習課題曲	必修課題曲	試験課題曲
かえるの合唱	あくしゅで　こんにちは	おはよう
ぶん　ぶん　ぶん	おかえりのうた	おはようのうた
ちょうちょう	おかたづけ	おかえりのうた
メリーさんのひつじ	おべんとう	さよならのうた
あくしゅで　こんにちは	かえるの合唱	たきび
かたつむり	どこでしょう	とんぼのめがね
ひげじいさん	ちょうちょう	ふしぎなポケット
ちゅうりっぷ	ぶん　ぶん　ぶん	あめふりくまのこ
きらきら星	ひげじいさん	いぬのおまわりさん
おかえりのうた	むすんでひらいて	
おかたづけ		

同じ楽曲が含まれているため，合計は22曲である。これらを前述したとおりの学習プロセスが踏めるように，以下，音価ごとに分析した。右に行くにつれて難度が高くなるようになっている。

なお，複付点4分音符については，4分音符と付点8分音符および16分音符の組み合わせをタイで結んだものと同等であるとみなし，省略した。同じく，楽曲の前奏部分も分析対象外とした。

表3　音楽Ⅰ課題曲（平成30年度）のメロディーの音価分布

	4分音符 4分休符	2分音符 2分休符	付点 2分音符	全音符 全休符	8分音符 （連結） 8分休符	付点 4分音符 8分音符 （単）	16分音符 （連結） 16分休符	付点 8分音符 16分音符 （単）
かえるの合唱	○							
ぶん　ぶん　ぶん	○	○		○				
ちょうちょう	○				○			
メリーさんのひつじ	○				○			○
あくしゅで　こんにちは	○	○			○	○		
かたつむり	○		○			○		
ひげじいさん	○				○			

ちゅうりっぷ	○				○			
きらきら星	○							
おかえりのうた	○	○	○			○		○
おかたづけ	○	○						○
おべんとう	○	○			○			○
どこでしょう	○				○		○	○
むすんでひらいて	○	○			○	○		
おはよう	○	○						○
おはようのうた	○				○			○
さよならのうた	○	○	○			○		○
たきび	○				○	○		
とんぼのめがね	○	○			○	○		
ふしぎなポケット	○							
あめふりくまのこ	○	○						○
いぬのおまわりさん	○	○			○	○		

表３を基に，音楽Ｉの弾き歌い課題を難度が低い楽曲から，高い楽曲へと並び変えると，表４の様になった。

表４　音楽Ｉ課題曲（平成 30 年度）の音価における難度分析

第１段階	４分音符，４分休符のみ	「かえるの合唱」「きらきら星」「ふしぎなポケット」
第２段階	２分音符，２分休符，全音符，全休符	「ぶん　ぶん　ぶん」
第３段階	８分音符（連結）	「ちょうちょう」「ひげじいさん」「ちゅうりっぷ」「むすんでひらいて」
第４段階	付点４分音符と８分音符の組み合わせ	「あくしゅで　こんにちは」「かたつむり」「たきび」「とんぼのめがね」「いぬのおまわりさん」
第５段階	16 分音符（連結）	該当なし
第６段階	付点８分音符と 16 分音符の組み合わせ（８分音符（連結）がない楽曲）	「おかたづけ」「おはよう」「あめふりくまのこ」
第７段階	付点８分音符と 16 分音符の組み合わせ（８分音符（連結）がある，もしくは付点４分音符と８分音符の組み合わせがある楽曲）	「メリーさんのひつじ」「おかえりのうた」「おべんとう」「どこでしょう」「おはようのうた」「さよならのうた」

このような順で課題を与えれば，学習効果が上がるのではないか。

⑶　音楽Ⅰにおける弾き歌い楽曲の指導法の考察

以上により，今年度（平成 30 年度）の音楽Ⅰの課題曲を例にとり，その音価に基づく難度，そしてそれに基づく学習順を示すことができた。

第１段階のうち，条件が同じである「かえるの合唱」「きらきら星」「ふしぎなポケット」は，指の配置変えの頻度および調性の問題を考慮し，この学習順が良いのではないであろうか。

これら楽曲は比較的容易であるが，４分休符の感覚を身に付けるためにも，音価が４分音符，４分休符のみで構成されているこの段階からリズム打ちを行ったほうが良いと思われる。また，拍子感を身に付けるために，拍子が４分の４拍子，４分の２拍子，および４分の３拍子のリズム打ちも行うと良いであろう。容易な課題を課せば，基礎力を身に付けることができるのはもちろん，ピアノ初心者ということで消極的な姿勢の学習者も成功体験を積むことができ，より前向きにその後の学習に向き合っていけるのではないであろうか。

以下，それぞれの段階に相当する両手によるリズム譜を譜例として挙げる[(3)]。このような両手でのリズム打ちは，左右違う動きをするため，学習効果はかなり高くなる。なお，リズム譜は必要に応じて指導者が作成する等，学習者にあったものを用意するべきであろう。

譜例１　第１段階に相当するリズム譜

第２段階では，４分音符，４分休符より長い音価が加わる。この段階の楽曲のリズム打ちも，基礎を学ぶために，省略せず行うほうが良いであろう。

譜例２　第２段階に相当するリズム譜

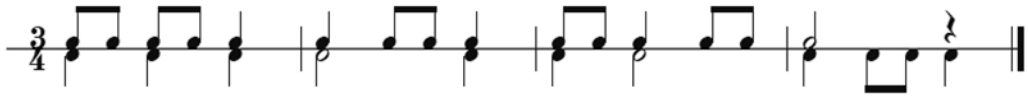
第３段階の「ちょうちょう」「ひげじいさん」「ちゅうりっぷ」では，２つ連結した８分音符が出てくる。また，「むすんでひらいて」で使用されている８分休符は，２拍目の裏拍であるため，難度としてはこの段階に含まれよう。

「ちょうちょう」は指の配置変えが無いため，指の独立運動の一助になるであろう。それに対して「ひげじいさん」および「ちゅうりっぷ」は，指の配置変えが必要な楽曲である。スムーズ

な移行をするために，適切な指番号を指導することが求められる。

実際に楽曲を演奏するにあたって，8分音符が出てきた段階からは気を付けて指導を行うべきである。8分音符の説明として，4分音符の半分の長さであると言うと，学習者によっては理解が難しいと感じるようである。長さが半分とは，次の音に移動するまでの時間が短くなるということなので，連続した8分音符は，連続した4分音符に比べ倍の速度になる。それを正確に表現するためにも，4分音符と2つ連結した8分音符共にでてくる他の弾き歌い楽曲（例えば「小ぎつね」「てをたたきましょう」「はと」等），もしくは同様の新曲視唱およびリズム打ちを，同時期に課題として与えると良いであろう。

譜例3　第3段階に相当するリズム譜

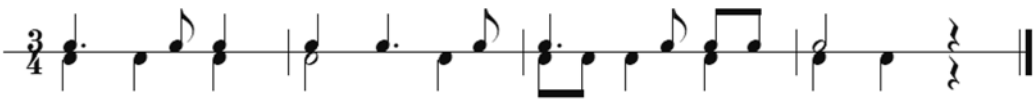


第4段階では，付点4分音符と8分音符の組み合わせのリズムが含まれる楽曲が挙げられる。条件がほぼ同じ楽曲である「かたつむり」「たきび」「とんぼのめがね」「あくしゅでこんにちは」の学習順は，指の配置変え，リズムの難度あるいは楽曲の長さ等によって決定すると良いように思われる。

この段階になると，リズムの難度がさらに高まり，学習者によって表現力にばらつきが見えだす。4分音符あるいは8分音符で拍をカウントしながら，それに合わせてリズム打ちを行う等，指導に工夫が必要であろう。同段階の他の楽曲（例えば「春がきた」「とけいのうた」「めだかのがっこう」等）を課題として与えることも，基礎力を付けるためには考慮すべきことではないであろうか。

また，この段階がまだしっかり把握できていない状態で，さらに難度の高い楽曲に取りかかってしまうと，はっきりとしたリズムの区別ができない学習者も出てきてしまうようである。先を急がずに，きちんとリズム打ちを含めた指導を行うことが，その後の混乱を避けるためにも必要なことではないであろうか。

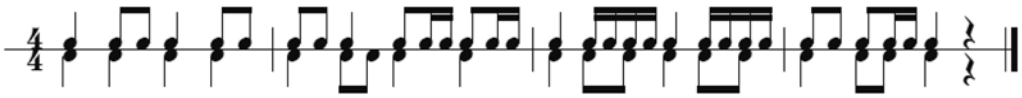
譜例4　第4段階に相当するリズム譜



第5段階に該当する楽曲は，今年度の音楽Ⅰの課題曲では見当たらなかったが，例として「ど

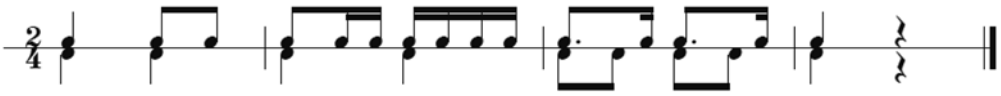
んぐりころころ」「シャボンだま」「虫の声」等がこの段階の楽曲として挙げられる。これらの楽曲をリズム打ちも含めて学習すると，その後の第 6 段階の付点 8 分音符と 16 分音符の組み合わせのリズムが学習しやすいであろう。

譜例 5　第 5 段階に相当するリズム譜



第 6 段階では，付点 8 分音符と 16 分音符の組み合わせのリズムを含んだ楽曲を挙げたい。このリズムは多くの楽曲に含まれるリズムであるが，これを教員・保育者養成におけるピアノ初心者が，基礎的な知識，練習なしに自力で読譜をして正確に表現するのは，かなり難しいと思われる。ゆえに，第 5 段階までのリズム打ちおよび弾き歌い課題において，基礎力を付けることが非常に重要であろう。また，この段階では混乱を避けるため，次の第 7 段階にあたる付点 4 分音符と 8 分音符の組み合わせのリズムを含まないよう，注意を払うべきである。

譜例 6　第 6 段階に相当するリズム譜



第 7 段階では，既習のリズムが同一楽曲内に複数含まれているため，正確なリズムを取ることがかなり難しいようである。「おべんとう」「おはようのうた」はその最たるものとして挙げられよう。付点 8 分音符と 16 分音符の組み合わせのリズムと，2 つ連結された 8 分音符が交互にでてきて，その区別を付けられずにいる学習者が多々見受けられる。やはり，ここまでの基礎的なリズムの学習が必須であろう。

譜例 7　第 7 段階に相当するリズム譜

4. その他，指導における留意点

学習者のリズムに対する理解度は，おおむね次のように分かれる。①頭で理解し，表現できる。②頭では理解できるが表現できない。③頭で理解できず，表現もできない。

正確なリズムの表現に至らない学習者は，さらに大きく2パターンに分かれる。①指導者が横で演奏する等，その楽曲を聴くと表現できる。②その楽曲を聴いても表現できない。

楽曲を聴いてリズムが表現できない学習者は，実際にリズム打ちを体験させると表現ができるようになるようである。それゆえ，リズム打ち学習は必須であると言えよう。

リズム打ち課題として，既知の楽曲を始めから明らかにして与えることには注意が必要である。前述したとおり，「耳コピ」を事前にしてしまうと意味をなさなくなるからである。またインターネット等メディアで配信されていたり，保育所等で教えられている楽曲は不正確に演奏されている場合がある。学習者がそれらを鵜呑みにして読譜せずに演奏すると，指導者は間違いを理解，訂正させるために多くの時間を費さなければならない。そのためにも，あらかじめ楽曲を明らかにせずに，リズム打ちを行わせたほうが良いと思われる。

しかし，特定の楽曲においてリズムが問題で弾き歌い課題の演奏に困難が生じている場合は，当該楽曲のリズム打ちを行うべきである。また，リズム打ちのみならず，視唱も含んだソルフェージュ教育を同時に行うと，さらに基礎力，読譜力も増すであろう。

また，付点8分音符と16分音符の組み合わせのリズムと同様，教員・保育者養成における弾き歌い楽曲で非常に多く使用されている3連符については，付点8分音符と16分音符の組み合わせと同様に，4分音符1拍分を分割しているという観点から，学習プロセスとしてはその前後に組み込むと良いと考えられよう。

本論文では，『保育の先生・学生さんへ　3つのコードで楽らく弾ける♪ピアノ伴奏曲集』を基にして分析を行ったが，楽曲によっては拍子が違うものもある。例えば，「ぶん　ぶん　ぶん」は上記楽譜では2分の2拍子であるが，小林美実『こどものうた200』では4分の2拍子になっている。すると，この楽曲は第2段階ではなく，第3段階に含まれることになる。指導者は，使用する楽譜に応じて課題順を考慮するべきであろう。

また，使用されている調性についても，指導者は考慮が必要である。教員・保育者養成における楽曲において使用される調性はそれほど多くはないが，ピアノ初心者に対して，始めは黒鍵を使用しない楽曲を選択することが無難であると思われる。

さらに，本論文ではコードネーム伴奏を行うという前提で，メロディーに特化した分析を行ったが，コードネーム付きでない楽譜を使用する場合は，伴奏も考慮して課題順を決定するべきで

あろう。コードネームについては，調性の理解無くして，演奏する際に適切な配置を選択することは困難である。楽典およびソルフェージュ教育，そして基礎を省かないピアノ指導が必要と言えるのではないであろうか。

5. まとめ

本論文では，本学の今年度（平成30年度）の音楽Ⅰの課題曲を例に挙げて，音価の観点からの難度分析および指導法の考察を行った。これにより，音価の難度を考慮した学習プロセスを踏み，リズム打ち学習を含めた指導を行っていくことで学習効果が上がることを示唆できた。弾き歌い課題が違う楽曲である場合でも，この学習プロセスに沿った指導法は有効であると言えよう。

指導者は，学習計画を立てる際，基礎的な学習プロセスを省略せず適切な課題を臨機応変に付け加えながら与えていくべきであろう。

それゆえ，ソルフェージュ教育は欠かせないものである。きちんとした基礎力を身に付けることができれば，自力での読譜力も付き，適切な表現力を伴った演奏を行うことが可能になる。そしてそれは，幼児および児童が豊かな感性と表現力の芽生えを養うことにつながるであろう。

残念なことに，昨今は時間をかけず，効率的であることが良いこととされる風潮があるが，そもそもピアノ演奏は，地道な努力を経て徐々に上達していく性質のものである。指導者には，目先の成果を望むのではなく，長い目で見て必要と思われる基礎能力を身に付けられるような指導を行うことが求められる。

《注》

（1） 佐藤千佳「教員養成，保育者養成における歌唱とピアノの融合の試み ── ピアノ初心者用教本比較による考察 ──」『日本女子大学紀要人間社会学部』第26号，日本女子大学，2016年，pp. 73-85

（2） 同上

（3） 以下，リズム譜例は，筆者によるものである。

参考文献

論文

佐藤千佳「教員養成，保育者養成における歌唱とピアノの融合の試み ── ピアノ初心者用教本比較による考察 ──」『日本女子大学紀要人間社会学部』第26号，日本女子大学，2016年，pp. 73-85

髙﨑展好「保育者養成における音楽表現のためのリズム・ソルフェージュ指導法」『環太平洋大学研究紀要』第10巻，環太平洋大学，2016年，pp. 33-40

本多佐保美，山本純ノ介，揚原 祥子「小学校教員養成課程教科専門科目「音楽」の内容に関する検討試論」『千葉大学教育学部研究紀要』第66巻第1号，千葉大学，2017年，pp. 231-238

楽譜

伊藤伸明『保育の先生・学生さんへ　3つのコードで楽らく弾ける♪ピアノ伴奏曲集』ドレミ楽譜出版社，2016

小林美実『こどものうた 200』チャイルド本社，1975 年

小林美実『続こどものうた 200』チャイルド本社，1996 年

高橋正夫『新版　みんなのオルガン・ピアノの本 1-4』ヤマハミュージックメディア，2015 年

田丸信明『ぴあのどりーむ 1-6』学習研究社，1993 年

橋本光一『ピアノひけるよ！シニア 1-3』ドレミ楽譜出版社，1999 年

橋本光一『ピアノひけるよ！ジュニア 1-3』ドレミ楽譜出版社，1998 年

オンライン資料

厚生労働省「保育所保育指針」（厚生労働省ホームページ）

https: //www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf（参照 2018 年 9 月 26 日）

文部科学省「学校教育法」（文部科学省ホームページ）

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm（参照 2018 年 9 月 26 日）

（提出日　2018 年 9 月 26 日）